岐阜大学カリキュラム開発研究
2008.3, Vol.25,No.2,56-64

音楽教科書におけるポピュラー音楽

―教材としての意義と可能性―

安部有希*1・伊東　英*2

ラジオやテレビ，さらにはインターネットといったマスメディアで日々消費されているポピュラー音楽は，生徒の日常生活において最も身近な音楽であり，生徒に多大な影響を与えている．本稿では中学校と高等学校（芸術）の音楽教科書に採用されているポピュラー音楽の教材性やポピュラー音楽学習の展望についての検討を行った．現状では教科書に採用されたポピュラー音楽の多くは合唱曲の一部として用いられているが，今後は歌唱だけでなく，広い視野を持ってポピュラー音楽学習を展開していく必要がある．

〈キーワード〉　音楽教科書，ポピュラー音楽，学習指導要領，教材，歌詞

Ⅰ．はじめに

普段，生徒が接している音楽は，音楽教科書で学習するクラシック音楽や合唱曲などよりも，いわゆるポピュラー音楽が圧倒的に多いと言える．ポピュラー音楽の中でも，流行り廃りが激しく，売り上げを競い合うような音楽は，かつて音楽教科書に採用されることはなかった．

しかし今日，多様な音楽が音楽教科書の中で取り上げられている．ポピュラー音楽もその中のひとつであり，近年ではＪポップと呼ばれる日本のポピュラー音楽もいくつか掲載されるようになった．このことに対し，音楽科教育では生徒の「生活の音楽」 ともいえるポピュラー音楽の教材性に関する研究はあまり行われて（重要視されて）いないのが現状である．

Ⅱ．研究方法

本研究では，過去に使用された教科書や現在使用されている教科書を調査・分析することで，ポピュラー音楽の教材性や，これからのポピュラー音楽学習の展望について以下の２点を中心に考察していく．

①音楽教科書で扱われているポピュラー音楽を，学習指導要領改訂の年代に沿って調査し，採用されているポピュラー音楽の曲目や特徴を明らかにする．

②近年教科書に採用されているポピュラー音楽の歌詞を分析し，音楽教科書で扱うポピュラー音楽はどのようなものが適当だとされているか検討する．

これらを踏まえ，今後のポピュラー音楽学習の展望について考察する．

Ⅲ．教科書調査

1．ポピュラー音楽の定義

広義に解釈すれば，ポピュラー音楽とは「芸術音楽，シリアス音楽と区分されている音楽と，非常に民俗性の強い諸文化圏の民俗音楽と区分されている音楽との間にある広大な領域の音楽一般」を示す音楽用語である（三井徹，2004，p. 711）．しかし実際には研究者によってその定義は様々に異なっている．本研究では，合唱曲や教材のために作られた曲は含まず，国内のサブカルチャーとしての大衆音楽，レコードやCDとして売り上げ枚数を競うような音楽産業を中心として発信されている音楽を，ポピュラー音楽として取り扱っていくことにする．そして，戦後のポピュラー音楽の中でも欧米の影響を強く受けた 1960 年代以降のものを，近年の場合ならばヒットチャートという形で，シングルの売上，放送回数などがカウントされ，チャートの上位を占めるものを日本のポピュラー音楽として位置づける．

2．教科書の年代別調査

*1 総合情報メディアセンター　　*2　教育学部生涯教育講座

ここで扱ったのは，中学校と高等学校（芸術）のもので，教育課程の基準として法的拘束力を持つようになった第 4 次学習指導要領（昭和 44 年告示）から現行の第 7 次学習指導要領（平成 10 年告示）までである．年代別に調査したところ，音楽科の学習において何をどのような音楽で学ばせるべきかという方針が徐々に変化してきたことがわかった．

その学習指導要領に従って作成された音楽教科書を 年代別に調査した．音楽教科書に掲載されている曲を日本の音楽（総数），ポピュラー音楽（日本），外国の音楽と分け，年代によってどのように変化していったかをまとめた．ポピュラー音楽に関しては，その曲目を挙げ，年代や教科書会社によって見られる特徴・傾向について考察した．

表 1　音楽教科書におけるポピュラー音楽採用曲数の推移

中学校の音楽教科書

	昭和47年度版	昭和56年度版	平成5年度版	平成17年度版
教育出版社	0	3	13	5
教育芸術社	0	4	1	3

高等学校の音楽教科書

	昭和50～52年	昭和59～61年	平成5～7年	平成14～16年
教育出版社	1	0	10	16
教育芸術社	7	7	10	14
音楽之友社	3	9	15	9

※ただし高等学校の音楽教科書は学年によっては 2 種類の教科書があるため，その両者に採用された曲数の平均で示すこととする．

2. 1. 調査対象

教 科 書：第 4 次～第 7 次学習指導要領に対応した音楽教科書

中 学 校：2 社（教育芸術社，教育出版社）

高等学校：3 社（教育芸術社，教育出版社，音楽之友社）

2. 2. 調査方法

教科書に掲載されている日本のポピュラー音楽と思われる曲数を，各社，各年代によってどのように変化しているか調査する．ポピュラー音楽に関しては，教材としてどのような場面で扱われているか，採用されたポピュラー音楽にどのような傾向があるかを検討する．

2. 3. 調査結果

中学校の音楽教科書は，第 5 次学習指導要領（昭和 52 年告示）に対応した音楽教科書からポピュラー音楽が登場していた．2 社の教科書が採用したポピュラー音楽の共通点は， 1960～70 年代のフォークソングや歌謡曲が中心であることだ．第 7 次学習指導要領（平成 10 年告示）に対応した教科書では，ポピュラー音楽の傾向が 2 社で異なり，教育芸術社は 1960～70 年代の曲を，教育出版社は 1990～2000 年代の曲を中心に扱っていた．

高等学校（芸術）の音楽教科書は，3 社とも第 4 次学習指導要領（昭和 45 年告示）に対応した教科書で既にポピュラー音楽を採用していた．高等学校の音楽教科書に採用されるポピュラー音楽は，1960～70 年代の曲を中心としていたものから，1960～2000 年代まで幅広い曲を扱うようになった．その中でも顕著だったのは，1970 年代から現在も活躍している特定のアーティストの曲や，テンポがあまり速くない曲などであることが明らかになった．

中学校，高等学校ともにポピュラー音楽の大部分は「歌唱」の教材（合唱曲）として扱われていた．いくつか「器楽」においても用いられていたが，「鑑賞」の教材として位置づけている教科書はなかった．

Ⅳ. 歌詞分析

1. 歌詞分析の概要

日本の音楽の中でも，伝統音楽や民俗音楽は「日本的」な部分を音（音階，旋律，音色等）で感じることが出来るかもしれない．しかしポピュラー音楽の場合，その音楽的特徴は音に象徴されにくい．日本のポピュラー音楽の曲を日本の曲だとわかる手掛かりは，歌詞に頼る部分が大きいと思われる．何よりもポピュラー音楽は「歌が大きな割合を占めていること」（三井徹，1983，p. 2356）は明白であり，日本のポピュラー音楽にももちろん当てはまる．極論すれば，ポピュラー音楽の中で「日本」を感じることができるのは歌詞からなのである．様々な音楽を吸収し，多様化していく日本のポピュラー音楽は，音に関して分析するよりも，歌詞に関して分析を行なった方が一定の傾向が明らかになる可能性が高いと判断

される．そこで，本研究ではポピュラー音楽の重要な要素のひとつである歌詞を分析することにする．

音楽教科書では，とりわけ中学校において平成 10 年告示の第 7 次学習指導要領から「我が国で長く歌われ親しまれているもの」，「我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの」，「我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの」という歌唱教材の基準が示されている．その基準を満たしているかどうかの判別の大部分は歌詞にかかっている．この中でポピュラー音楽が確実にカバーできるものといえば，「我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの」，「我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの」のふたつである．つまり，学校教育において使用されうる日本のポピュラー音楽は，これらふたつの条件を満たしている歌詞を持つ曲を中心に選択されている，ということを示唆している．

また平成 10 年度告示の第 7 次学習指導要領では，歌詞に関して以下のような内容が示されている．

中学 1 年：「歌詞の内容や曲想を感じ取って，歌唱表現を工夫すること」
中学 2・3 年：「歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」
高校Ⅰ：「歌詞及び曲想の把握と表現の工夫」
高校Ⅱ：「歌詞及び曲想の理解と個性豊かな表現」
高校Ⅲ：「歌詞及び曲想を生かした個性的，創造的な表現」

本研究では現在使用されている音楽教科書の歌詞を分析することが必要であり，歌詞を分析することにより，音楽教科書で採用されるポピュラー音楽の傾向を明らかにしていく．この際，石原千秋（2005）の分析方法を参考に，教科書におけるポピュラー音楽の歌詞分析を行っていく．ここでは歌詞の「作者」と「テクスト」とを切り離して論じる「テクスト論」という方法をとる．つまり，「『作者の意図』などまったく考慮しない」（石原千秋，2005，p. 8）ことにより，どんなテクストも同じように分析することが可能となる．この方法をとった上で，歌詞から 3 つの言葉（キーワード）を選び，全体を読み解いていく作業を行った．

分析を行ったのは，現在使用されている中学校の音楽教科書，高等学校の芸術（選択音楽）における音楽教科書である．中学校は 2 社（教育出版社，教育芸術社）の教科書から，高等学校は 3 社（教育出版社，教育芸術社，音楽之友社）の教科書から，日本のポピュラー音楽にあたる曲を分析した．

2. 歌詞分析の事例

ここでは，井上陽水の代表曲「少年時代」とゴスペラーズの代表曲「ひとり」について，上記の方法に従った歌詞分析の結果を紹介する．

少年時代

作詞：井上陽水　作曲：井上陽水・平井夏美

夏が過ぎ　風あざみ
誰のあこがれにさまよう
青空に残された　私の心は夏模様

夢が覚め　夜の中
永い冬が窓を閉じて
呼びかけたままで
夢はつまり　想い出のあとさき

夏まつり　宵かがり
胸のたかなりにあわせて
八月は夢花火　私の心は夏模様

目が覚めて　夢のあと
長い影が夜にのびて
星屑の空へ
夢はつまり　想い出のあとさき

夏が過ぎ　風あざみ
誰のあこがれにさまよう
八月は夢花火　私の心は夏模様

キーワード

誰のあこがれにさまよう…全体においてこのキーワードだけはセリフのような，誰かに（「私」も含め）問いかけているような一節だ．そして，こんな問いかけはしたこともされたこともないだろう．おそらく主語は「私」になると思われるが，一体「私」は「誰のあこがれ」を「さまよう」としているのか．この一節からすでに「少年時代」という歌のぼんやりとした世界を象徴しているのではないだろうか．

永い冬…「夏が過ぎ」と始まるのでこの「夏」と対になる「冬」を表しているように思ってしまうが，その前についている「永い」が「冬」のイメージを大きく広げている．「ながい」と音で聞けば「長い」が先に浮かぶ．これは一般的になにかモノの長さであったり，期間の長さであったりする．しかし「永い」となると時間的な意味しか含まれない．「永久」，「永い眠り」など，「永い」には途方もない時間のながさを感じる．その「永い」に「冬」がくるのだから，ここでの「冬」は単なる春夏秋冬を越えた意味で使われており，暗い過去，境遇がイメージできそうなキーワードである．

夢のあと…この歌詞では「夢」が何回も登場する．題名である「少年時代」といえば「夢」にあふれている時期だと考えられ，プラスのイメージも想起されるが，全体の歌詞からするとはかなく消えてしまう「夢」のイメージの方が強く感じられる．そして「夢のあと」の「あと」は，「後」でも「痕」でもどちらともとれる．どちらであっても「夢のあと」は「少年時代」という時期を過ぎた，「私」の現在の位置を示しているようにとれる．

「少年時代」は同名の映画の主題歌にもなった．映画は芥川賞作家・柏原兵三の自伝的小説『長い道』と，同書を基にした藤子不二雄Aの長編漫画『少年時代』とを原作とした作品．戦時下，地方の村に疎開した少年の成長と，地元の子供たちとの友情を描いたドラマである．「成長」と「友情」は学校教育でも好まれるような題材だが，肝心の「少年時代」の歌詞からはどちらも感じさせない．ただ，「我が国」で生きていれば一度は体験し，記憶に残っているだろう情景が思い浮かぶ歌詞ではある．

思い出にひたっているような，ぼんやりとつかみどころのない歌詞の「少年時代」は様々な教科書で採用されている．「私」（＝語り手）の性別や，感情，思考も曖昧な「少年時代」の歌詞は，あっさりと通り過ぎることはできるかもしれないが，それでは不思議な歌詞の歌で終わってしまうのではないだろうか．逆に捉えれば，「少年時代」の歌詞テクストの随所に見られる曖昧さによって，解釈の幅をいくらでも広げられる．このことが教科書で定番となるひとつの条件と考えられそうだ．

ひとり

作詞作曲：村上てつや

「愛してる」って最近　言わなくなったのは
本当にあなたを愛し始めたから
瞳の奥にある小さな未来のひかり
切なくて愛しくて吸い込まれてく

たった一つのこと　約束したんだ
これから二度と　離さないと
たった一人のため　歩いてゆくんだ
あなたに二度と　悲しい歌
聴こえないように

不思議な気持ちさ　別の夢追いかけたあなたが
今僕のそばにいるなんて
うたがってた三月　涙が急にこぼれた
許し始めた五月　わだかまりも夏に溶けてく

たった一つのこと　約束したんだ
これから二度と　離さないと
たった一人のため　歩いてゆくんだ
あなたに二度と　悲しい歌
聴こえないように

前に恋してたあなたとは　今はもう別の人だね
こんなに静かに激しく　あなたのこと愛してる

たった一つのこと　約束したんだ
これから二度と　離さないと
たった一人のため　歩いてゆくんだ
あなたに二度と　悲しい歌
聴こえないように

キーワード

小さな未来…語り手と「あなた」の間にある「小さな未来」とは，おそらく「二人の未来を約束する＝結婚」だろう．本当に「あなた」を「愛し始めた」と語り手は気付く．いかにも曖昧性や以心伝心，言わなくてもわかることを好む日本の男性という感がある．このテクストでは，始めの数行に「愛」という言葉が集中し，その後「愛」が登場するのは一回きりである．めったに言わない方が価値があるとでも言いたそうな「愛してる」に聞こえてくる．まだ「小さな」「ひかり」であるのは，これから二人で「未来」を歩いていくには不安の方（暗闇）が多いだろう．その中で「あなた」はたった「一つ」の「ひかり」なのかもしれない．

別の夢…どうやら「あなた」はすぐに「僕」を受け入れたわけではないようだ．ふたりの関係は紆余曲折であったことがテクストにもストレートに書かれている．「うたがい」「わだかまり」ときけば，「別の夢」が「別の人」と思えなくもない．「別の人」との「未来」が「あなた」にとっての「別の夢」になるかもしれないのだ．現に語り手は，この部分のテクストには具体的に「僕」として登場している．やはり，「他の人」ではなく，「僕」を選んだのだと主張しているのだ．そして「二度と～聴こえないように」と「約束」した「悲しい歌」は，ここで聴いたのかもしれない．

別の人…語り手は「恋」と「愛」を別のものだと考えているのかもしれない．「恋愛」とまとめて記述されることが多いが，実際は一緒にしてはいけないのかもしれない．ここから見えるのは，「結婚」には「恋してた」のでは叶わず，「静かに激しい愛」が必要だと確信している．（世の中の結婚話にも，恋人となる男性と結婚相手とは違うということが言われる．）語り手は「今」の「あなた」は「別の人だ」と感じているが，おそらくそれは語り手自身が変わり，「別の人」になったからだろう．片方が変わったと思う時とは，どちらも変化している可能性が高い．「あなた」が「別の人」になったきっかけは，「僕」が「たった一つのこと」を約束し，「たった一人（あなた）のため」に生きていくと誓ったことだ．その覚悟が「あなた」に伝わり，「別の人」となることに繋がったのではないだろうか．

この曲はプロポーズに成功した男性の歌である．または二人で生きていくことを誓った歌とも言える．プロポーズは男性がやるものという決まりごとが透けて見える．それが語り手だけの考え方だと思えないくらい，プロポーズを予感させる曲は大抵の語り手が男性だったり，女性は待ちの姿勢（受身）だったりする．このような歌詞テクストと多く接することが，男性がプロポーズし女性はそれを受けるという意識がすりこまれている気がする．

テクストには「あなた」という言葉が何度も登場し，「あなた」への気持ちで溢れている．それと共に「今」の二人を感じられるのではないだろうか．それは「これから」「こんなに」といった現在に近い指示語によって，未来でも過去でもない二人の姿を見て取ることができる．この「愛」がこの先も続いているのかということは別にして．

3. 分析結果

3. 1. 中学校の音楽教科書におけるポピュラー音楽の歌詞分析

中学校の音楽教科書に関しては，平成 13 年度版の教科書から平成 17 年度版へと移行した．そこで本研究の歌詞分析では，平成 16 年度まで使用されていた音楽教科書と平成 17 年度から使用されている音楽教科書の両方を分析の対象とする．

平成 13 年度版の音楽教科書では，教育出版社と教育芸術社合わせ，総数としては 15 曲のポピュラー音楽が採用されていた．教科書内で重なっている曲や両社で重なっている曲をまとめると，平成 13 年度版の音楽教科書で採用されたのは 11 曲となる．平成 17 年度版では，採用されたポピュラー音楽の総数は 8 曲，重なる曲をまとめると 7 曲となっている．両年度で見ていくと，音楽教科書に採用されているポピュラー音楽は 15 曲となる．その中で「北の国から」は歌詞が「スキャット」となっているため分析対象から外す．よって，以下の 14 曲について歌詞分析を行った．ここでは，14 曲の歌詞分析を行った上で，それぞれの歌詞の主なストーリー・ラインを挙げ，傾向を探る．

1. 「上を向いて歩こう（1961）」
2. 「涙をこえて（1969）」
3. 「太陽がくれた季節（1972）」
4. 「翼をください（1970）」
5. 「いい日旅立ち（1978）」
6. 「夢をあきらめないで（1987）」
7. 「少年時代（1990）」
8. 「島唄（1992）」
9. 「春よ、来い（1994）」
10. 「君を忘れない（1996）」
11. 「もののけ姫（1997）」

12.「夜空ノムコウ（1998）」
13.「涙そうそう（2000）」
14.「いのちの名前（2001）」

（発表年代順）

この 14 曲から，中学校の音楽教科書で採用されているポピュラー音楽の傾向として以下の点が挙げられる．

- 青春や若い世代を題材としている
- 悲しみや苦しみを受け止め，乗り越えようとする内容が多い
- 個人的な恋や愛よりは，一般的に誰もが共感するような内容が多い
- 読み手によって様々な解釈ができる曖昧な表現が多い

これらをまとめると,「恋愛に関する内容よりも大きく人生に関する内容」で,「未来への希望や生きていく上での教訓」のようなテクストが多いことが分析からわかった．中学校の音楽教科書では，建設的な内容のテクストを用いたポピュラー音楽が採用されていると考えていいだろう．

3. 2. 高等学校の音楽教科書おけるポピュラー音楽の歌詞分析

高等学校の音楽教科書に関しては，平成 17 年度現在使用されている平成 14～16 年度版の教科書から，ポピュラー音楽にあたる曲について歌詞分析を行った．各社（教育出版社，教育芸術社，音楽之友社）が音楽教科書に採用したポピュラー音楽は次項からの表の通りである．

各社重なっている曲目や，歌詞がないインストゥルメンタルの曲目を考慮すると，高校の音楽教科書で採用されているポピュラー音楽は 35 曲となる．

1. 「上を向いて歩こう（1961）」
2. 「明日があるさ（1963）」
3. 「見上げてごらん夜の星を（1963）」
4. 「さとうきび畑（1967）」
5. 「翼をください（1970）」
6. 「やさしさに包まれたなら（1974）」
7. 「卒業写真（1975）」
8. 「晩夏（ひとりの季節）（1976）」
9. 「花～すべての人の心に花を（1980）」
10. 「I LOVE YOU（1983）」
11. 「風の谷のナウシカ（1984）」
12. 「君をのせて（1986）」
13. 「となりのトトロ（1988）」
14. 「川の流れのように（1989）」
15. 「少年時代（1990）」
16. 「きっと―光のありか―（1993）」
17. 「島唄（1992）」
18. 「時代（1993）」
19. 「風になりたい（1995）」
20. 「Tomorrow（1995）」
21. 「君を忘れない（1996）」
22. 「もののけ姫（1997）」
23. 「ヘロン（1998）」
24. 「夜空ノムコウ（1998）」
25. 「Everything（2000）」
26. 「さよなら大好きな人（2000）」
27. 「地上の星（2000）」
28. 「TSUNAMI（2000）」
29. 「涙そうそう（2000）」
30. 「いつも何度でも（2001）」
31. 「君の声に恋してる（2001）」
32. 「ひとり（2001）」
33. 「Best Friend（2001）」
34. 「FINAL DISTANCE（2001）」
35. 「未来へ（2002）」

（発表年代順）

網掛けをしてある曲は中学校の音楽教科書で採用されたポピュラー音楽である．それ以外の 26 曲の歌詞分析を行った上で，それぞれの歌詞の主なストーリー・ラインや特徴を挙げ，傾向を探る．

中学校で採用されているポピュラー音楽と共通する 8 曲を除き，高校で採用されている 26 曲を分析すると，以下のような傾向がわかった．

- 恋愛に関するテクストが多いこと
- 特定のアニメ映画の内容に関するテクストが多いこと
- 語り手の前向きで素直な姿勢を感じさせるテクストが多いこと
- 読み手によって様々な解釈が可能なテクストが多いこと

まず一点目については，高校だけで採用されているポピュラー音楽の 26 曲中 9 曲が恋愛に関するテクストとなっており，このことが中学校で扱われるポピュラー音楽と最も異なる部分である．9 曲の中でも面白い傾向が見られた．それは 9 曲中 7 曲のテクストにおいて，語り手が男性だったのだ．教科書の中では，男性から女性への恋愛を歌ったものが多いことになる．

二点目については，教科書全体の傾向というよりも，教育出版社の教科書で顕著に見られることである．特定のアニメを見なければ理解できないテクストもある．それが考慮されているのかどうかわからないが，これらの曲に関しては器楽の分野で扱われることが多い．よって曲を採用する際に，歌詞が影響しているかははっきりしない．

三点目は，恋愛の曲やアニメからの曲以外に多く見られる傾向である．それらの曲の中では，語り手は素直な気持ちで「母」や「友達」に感謝したり，読み手に元気や希望を与えたりする．人としてこうでありたい，というお手本のような気持ちを持っている語り手が登場するテクストが多いことに気付く．

四点目は，つまりテクストの語り手の感じていることや，主義・主張がはっきりしないものが多いことである．曖昧なテクストであればあるほど，読み手は様々な想像をすることができ，解釈がひとつではないという面では分析しがいがあるかもしれない．しかし裏を返せば，当たり障りのないテクストや，読み手に確実には届かない印象の薄いテクストということも言えるだろう．

中学校と高校で扱われるポピュラー音楽の最も異なる部分は，「恋愛に関するテクスト」を有する曲が多いか少ないかであることだ．しかし，実際それは高校で扱われているポピュラー音楽 35 曲中の 9 曲であり，残りの 24 曲は恋愛以外の曲である．やはり，高校でも恋愛という男女の個人的な関係を歌うテクストよりも，性別や年齢に関係なく一般的に誰もが共感できるような建設的な内容のテクストが多いことは明らかである．

Ⅴ．考察

中学校の音楽教科書で採用されているポピュラー音楽の歌詞は，悲しみや苦しみを受け止め，乗り越えようとする内容や，個人的な恋や愛よりは，一般的に誰もが共感できる建設的な内容のテクストが多かった．また，読み手によって多様な解釈が可能になる，曖昧な表現が多いことも傾向として挙げられた．

中学校に比べ高等学校のものでは，恋愛に関する内容が増えていることは確かであったが，それは 35 曲中 9 曲にとどまり，後の 26 曲は中学校で扱われるポピュラー音楽において見られた傾向と似通ったものだった．

これまでの音楽教科書を調査し，歌詞分析をすることで，ポピュラー音楽は「歌唱」の教材（合唱曲）として用いられ，多くは一般的に誰もが共感できる建設的な内容の曲であることが明らかになった．つまり，一部のポピュラー音楽を合唱曲に近付けることで，ポピュラー音楽の教材性を見出してきたと言える．しかし現状のままでは，ポピュラー音楽は生徒の興味をひく教材，合唱曲の一種としての教材意義にとどまり，ポピュラー音楽の学習によって生徒が新しい発見や深い学びを得ることは望みにくい．

生徒が日常的に接し，影響を受ける音楽だからこそ，今後はポピュラー音楽をより体系的に捉え，生徒の音楽生活を豊かにするような教材として，ポピュラー音楽の学習を展開していく必要があると考えられる．

ポピュラー音楽の学習において足りないのは，何を目的にポピュラー音楽を用いて学習をするのかという視点である．歌い合わせることのすばらしさを目的とするならば，合唱曲を教材に用いればいいことだし，古からの音楽の美を学ばせたいのであれば，歴史的な芸術音楽を教材に用いればいい．では，ポピュラー音楽を教材に用いた場合，どのようなことが新たに学べるのか．これを追求しないまま，音楽教科書では合唱曲の一部として扱われている．今の音楽教育のポピュラー音楽は，ポピュラー音楽としての音楽ではなく，むしろ合唱曲としての音楽になっていると言っても過言ではない．

現在，生徒にとって「生活の音楽」と言ってもいいくらいのポピュラー音楽について，もっと広い視野を持って教材化するべきではないだろうか．小泉（2000）や安原（2002）が指摘するとおり，日常的に親しんでいる音楽に関して，生徒が客観的または批判的（クリティカル）な判断力を持つことが必要である．生徒が興味・関心を示し，生徒にとって身近な音楽であるからこそ，ポピュ

ラー音楽に対して客観的な視点を与え，生徒の嗜好とは別に“音楽”としてポピュラー音楽を捉えるべきである．「歌唱」だけでなく，「鑑賞」においてもポピュラー音楽を教材として用い，本研究で試みたような歌詞分析を行うのもひとつの手かもしれない．生徒が日常の音楽として接している時には気付かないポピュラー音楽の特徴・特性を知ることによって，ポピュラー音楽の良さや，ポピュラー音楽にはない他の音楽の良さも改めて感じられることができるだろう．また，小泉（2000）が提案していたように，ポピュラー音楽がどのように生徒の生活と関わっているのか目を向けたり，メディアを通じてどのような影響を生徒達が受けているのかという自覚を促したりするなど，広い視野を持ってより体系的にポピュラー音楽を捉えるべきなのではないだろうか．それは今後もマスメディアにおいて盛んに発信され，消費される音楽だからこそできる学習なのだ．生涯関わっていく確率が高いであろうポピュラー音楽の本質を，学校教育の音楽でも客観的に学習する必要があるのではないかと考え，今後，生徒の音楽生活を豊かにするような教材として，ポピュラー音楽学習が発展していくことを願っている．

引用文献一覧

・石原千秋．（2005）．J ポップの作詞術．日本放送出版協会．
・小泉恭子・西島央・三井徹．（2000）．音楽教育学研究 1.《音楽教育の課題と展望》．日本音楽教育学会編．音楽之友社．
・下中邦彦編兼発行．（1983）．音楽大事典　第 5 巻．平凡社．
・楠瀬敏則・三井徹・山本文茂．（2004）．日本音楽教育事典．日本音楽教育学会編．音楽之友社．
・安原雅之．（2002）．大学における教養科目としての音楽学－歌謡曲研究の可能性－，山口大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要第 14 号．

参考文献資料一覧

・秋岡陽，（2001），AERA Mook 音楽がわかる，朝日新聞社．
・阿部勘一・粟谷佳司・大山昌彦・東谷護編著，（2003），ポピュラー音楽へのまなざし，売る・読む・楽しむ，勁草書房．
・石原千秋，（2005），国語教科書の思想，筑摩書房．
・烏賀陽弘道，（2005），J ポップの心象風景，株式会社文藝春秋．
・烏賀陽弘道，（2005），J ポップとは何か－巨大化する音楽産業－，岩波書店．
・大柳正典・高橋澄代・吉村治広，（2003），学校音楽教育実践シリーズ 5，思春期の発達的特性と音楽教育，日本学校音楽教育実践学会編，音楽之友社．
・キース・スワニック著　塩原麻里・高須一監訳，（2004），音楽の教え方，音楽的な音楽教育のために，音楽之友社．
・キース・ニーガス著　安田昌弘監訳，（2004），ポピュラー音楽理論入門，水声社．
・江田司，（2005），小学校音楽科における鑑賞活動の可能性と課題，音楽教育実践ジャーナル vol.2 no.2，日本音楽教育学会．
・下中邦彦編兼発行，（1982），音楽大事典　第 2 巻，平凡社．
・田中史郎，奥田真丈・河野重男監修，（1993），現代学校教育大事典 2，行政．
・田家秀樹，（2004），読む J-POP，朝日新聞社．
・津田正之，高橋美樹，（2003），沖縄のポピュラー音楽を題材とした音楽授業づくりの一試論，琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要　第 10 号．
・津田正之　他，（2005），学び合いある音楽鑑賞の授業をつくる，音楽教育実践ジャーナル vol.2 no.2，日本音楽教育学会．
・坪能由紀子，（1991），研究の動向音楽社会学からのアプローチ　音楽教育学の展望Ⅱ　上，音楽之友社．
・坪能由紀子，吉富功修編著，（2001），重要用語 300 の基礎知識 8 巻，音楽科重要用語 300 の基礎知識，明治図書出版．
・中嶋恒雄，（2000）音楽教育学研究 3,《音楽教育の課題と展望》，日本音楽教育学会編，音楽之友社．
・水野和彦，（1991），音楽効果　なぜ音楽で人は変わるのか，情報センター出版局．
・吉富功修・日本音楽教育学会編，（2000），音楽教育学研究 1,《音楽教育の理論研究》音楽之友社．
・吉村治広，（2003），歌唱教材としてのポピュラーミュージックの可能性，－音程変化パターンの意識化を通して－，学校音楽教育研究．

・吉村治広，（2004），ポピュラー音楽の教材性に関する研究ー高校生の音楽的嗜好調査を通してー，学校音楽教育研究，日本学校音楽教育実践学会紀要，8：73-74.
・http://www.nicer.go.jp/guideline/old/（過去の学習指導要領一覧）
・http://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/kyoukasho/koukou/19koukou/H19koukou.htm（岐阜県教科書センター資料）